

2024年度自己点検・自己評価について（国際高等課程）

I. 当校における自己点検・自己評価の取り組みについて

本校では、2005年度から、全国にあるYMCA専修学校とともにYMCA独自の自己点検・自己評価を実施し、教育の改善に努めてまいりました。2007年度の学校教育法および同法施行規則の改正により、専修学校においても2009年度から自己点検・自己評価が義務づけられたことを契機に、自己点検・自己評価の内容を同法に沿う形に改め、実施に取り組んでいます。

II. 2024年度自己点検・自己評価の結果について

（1）全体的な傾向

自己点検、自己評価者の範囲は常勤職員にも広がっていますが、各々の学校に関する理解度や設問の受け取り方によって値が変わってくることも見受けられます。

全体的な傾向として、評価平均はおおむね3.0（4段階評価）前後で推移しており、昨年度と同様に安定して高い評価となっています。一方で、11のうち5つの項目で、表現・コミュニケーション学科が国際学科より0.5ポイント以上高い評価となっており、学科間で大きな差が見受けられました。その理由としては、国際学科は分析的・批判的思考が強い教職員が多く、それが強みであると同時に、生徒が大きく変化したこと、達成できていること等を過小評価しがちな部分があり、今後学校における成果や実績を、教職員間で共有する時間やシステムを強化する必要性がある、と考えています。

「教職員」「生徒支援」「生徒の受け入れ募集」「法令等の遵守」「国際交流」などの項目が、3.2を超える高い評価となりました。一方、「教育環境」は唯一3.0以下（2.9）となっていますが、グラウンドや専門科目の教室が少ないことに起因するものです。両学科とも全般として、教職員が生徒、また学校運営に尽力し、かつ密な情報交換を行っている結果が推察されます。

（2）項目毎の現状・課題と改善方策

（1）教育理念・目的・育成する人材像

①現状と課題

・教育理念の明確化について

本校は1980年に大阪府より専修学校としての認可を受け今日に至っており、高等課程では国際学科を1988年、表現・コミュニケーション学科を2005年に開設しております。しかし、その歴史は1882年の大阪YMCA創立以来、最も古い記録では1893年の英語夜学校設立までたどることができません。キリスト教精神に基づいて始められたYMCAは、「精神」「知性」「身体」の調和の取れた全人教育を理念としており、本校もこれを教育理念として掲げています。

今回の自己評価は昨年に引き続き平均3.1を保っていますが、学科別に見ると国際学科が2.4と非常に低くなっています（表現・コミュニケーション学科3.4）。パンフレットやホームページには教育理念を明記しており、特に国際学科では「スクールモットー」として生徒が日常の振り返りを行う基準としたり、全校スピーチコンテストの議題に用いるなど、強い存在感を持っています。「教育理念」という言葉に対する教職員・生徒・保護者の認識が影響しているとも考えられます。

②今後の改善方策

「教育理念」の浸透を図るため、中学校訪問や外部説明会での周知を強化し、入学前からの理解促進を進めます。国際学科では特に理念に基づいた振り返りや実践を教職員の会議や授業内で行う仕組みを導入し、理念が行動に結びつく機会を増やします。広報媒体を通じて理念を明確に打ち出し、在校生・保護者のみならず地域や関係団体に対しても一層の理解を得られるよう努めます。

(2) 学校運営

①現状と課題

学校法人大阪YMCAで10年単位のビジョンを策定し、これに基づき2~3年単位の中期事業計画を立て、それをもとに法人に属する各学校の年度単位の事業計画を策定しています。本校もそのプロセスを経て、中期および年度単位の事業計画に基づいた学校運営を行っています。

自己評価においては、表現・コミュニケーション学科3.10、国際学科2.78と全体で3.01となり、昨年度と同様の高い評価を示しました。意思決定の透明性や情報共有は一定の評価を得た一方で、教職員の一部において「情報が十分に周知されていない」との意見も見られています。

・運営組織や意思決定機関について

上記学校運営に関わる事業計画は、理事会・評議員会で意思決定され、学校法人経営会議および運営会議がそれを受けて具体的な運営を行っています。本校においては、高校生事業会議でさらに学科の責任者がそれぞれの部門の目標、役割を明確にしつつ、部門同士の連携を図りながら運営を行っています。また、部門の所属スタッフは、責任者より示された職務分掌に従って目標を理解し、役割と責任を果たしています。

今年度から新しく追加した質問「組織運営上有効な意思決定が行われているか」「運営会議や判定会議等、必要な意思決定に自分が参加できている実感があるか」において、それぞれ3.0、3.3と高い評価を得ました。特に後者については両学科とも高い数値で、「学校運営に参加できている実感がある」ことを教職員のモチベーションとして大切にしている本校の運営の特徴が十分反映されたと考えられます。

・人事や処遇に関する制度について

定年制教職員の採用・人事・研修（一部非常勤者対象も含む）等に関しては、本部事務局が管轄し、また常勤教職員や非常勤者等の採用や人事に関しては各学校が管轄しています。これらの要員計画は、事業計画に基づいて策定しています。また、定年制教職員の処遇に関しては、人事考課制度（MBOの活用による評価制度）を定め、これとの連動による昇進・昇級および賃金規程を定めています。

・情報公開について

自己点検・自己評価、学校関係者評価および財務情報は、ホームページで公開しております。

本部事務局にはICT室が置かれ、全事業所の業務管理と効率化を図っており、常に改善をしております。個人情報保護のため、全パソコンのUSB使用も禁止となっております。

②今後の改善方策

運営情報の周知を強化するため、教職員会議での情報共有を徹底し、職員全体に方針が伝わる仕組みを整えます。また、情報公開の方法についても、保護者への周知資料やWebサイトを通じて分かりやすい形で提供し、透明性の高い学校運営を推進します。

(3) 教育活動

①現状と課題

(目標の設定等)

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施等については、教育理念を具現化するための適切な教育課程を編成しており、授業のみならず学校行事一つひとつにおいて毎年、丁寧な見直しをしております。各学科の特色に基づき、毎年教育目標を見直し、目標達成に向けた年間計画を策定し実施しています。

(教育方法・評価等)

時代のニーズと生徒たちの構成にあわせ、ゴールを明確にし、カリキュラムに反映させています。カリキュラムは毎年見直しを行っており、今年度は3.0と高い評価を得ることができました(昨年2.7)。教科会議は学科毎に頻度が違い、頻度が低い学科は計画的に実施し、授業評価なども適切に実施できるようにしていきます。授業評価については、まだ仕組みづくりができておりません。成績や進級の基準は各学科とも学務要項や進級判定会議で明確に示されており、また資格取得についても国際学科では英検やIELTSなど英語資格の取得が授業でも積極的に進められています。

表現・コミュニケーション学科の職場体験については、学内外の様々な施設において、希望者のみならず必要とされた人に実施しています。カリキュラムとしてもゲストティーチャーや実習前研修、ライフスキルの授業など体系的に行っています。国際学科においても職業インタビューを実施しました。職業教育の形態が、過去に行っていた一斉インターンシップから、キャリアビジョンを個別に考える形へと時代の変化に合わせて変化してきています。

(教職員)

・教員の確保とスキルの向上について

本校では、教員のスキルの向上について、大阪YMCA主催のセミナーを案内して参加を促し、表現・コミュニケーション学科講師会等で教員の取組などが発表されています。今年度も教員同士での授業見学を行い、また毎年8月に公開授業を行っております。教員には学年当初または学期当初にシラバスの提出を求め、部門責任者がそれをチェックし、必要に応じ指導を行っています。

教職員の研修は、職員と常勤教員に対しては大阪YMCA全体で、安全研修と人権研修がそれぞれ年2回実施されています。また、高校生事業として年間で研修計画を作成し、救急法や対象理解の研修を実施しました。高等課程主催の一般教職員向けのセミナーや他団体が実施するカウンセリング研究会やモデル校見学、教員研修等には積極的に参加するよう案内をしており、研修については3.5と非常に高い評価を得ています。業務遂行のための研修は、OJTの視点を重視して日常業務の中で指導しています。

2カ月に1度、各学科においてアドバイザー会議を行い、学校運営の客観的な意見をいただいていることは、今後も継続的に実施いたします。

②今後の改善方策

- ・国際学科において、成績・進級の基準を今まで以上に明確にし、教職員間で十分に共有していくよう努めます。
- ・授業評価の仕組み作りを進めます。
- ・資格取得の実績について、進路担当者だけでなく学科全体で成果を共有し、適正な評価ができるように努めます。
- ・地域や外部団体と連携した体験活動の拡充も図ります。

(4) 学修成果

①現状と課題

・進学率の向上について

本校では、課程の特色にもとづき、進学希望者には各担当者（大学—国内・海外、専門学校、職業訓練校）が、生徒一人ひとりの希望に応じて、計画的に進路指導を行っています。保護者にも1年次から適切な時期に進路ガイダンスを行い、学校と家庭が協力して支援することを行っております。国際学科は4割が関関同立早慶上智以上、2割が海外留学と高い成果を維持することができました。

・資格取得率の向上について

資格取得を目標とする学科ではありませんが、英検、漢検、P検などは体系的な指導のもとに、生徒の学習意欲を高める動機づけとして資格取得できるように努めています。

・生徒指導と退学率の低減策について

複数担任制を導入し、ホームルーム、ショートホームルームで日々の様子を把握し、生徒の学習および学校生活の情報を教職員が連携して共有することにより、退学率を抑えるよう努めています。

・学習の定着について

昨年度から評価の下がった項目です（3.3→2.6）。特に国際学科では1.8と低い評価になっています。前述の通り進学実績・資格取得ともにこれまでの実績を維持しているにもかかわらず評価が低い原因としては、国際学科の自由な雰囲気が、授業態度として「定着が図られていない」と感じさせている可能性もあり、また「学習の定着」という言葉が、「学力」「学習意欲」双方を含む広い範囲で捉えられていることも一因ではないかと考えています。

・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか

在校生はもちろん、卒業生についても動向の把握に努めております。「地域の成人式に出にくい」という生徒の声に応え、卒業後、「二十歳の成人祝福礼拝」を実施しております。卒業生には月に一度の特別活動、年に一度のアンケートを実施し、また3年前からメーリングリストによる学校行事やボランティア活動への参加案内も始めています。さらに大阪市不登校通所事業の業務委託や尼崎市教育支援室の業務委託を受け、そこにも卒業生がメンタルフレンドとして活躍し、就労移行支援の位置づけにもなっております。卒業生の卒業後の相談も継続的に受けています。

②今後の改善方策

- ・資格取得の実績について、進路担当者だけでなく学科全体で成果を共有し、適正な評価ができるように努めます（前項と同様）

- ・学習の定着について、学力向上と学習態度、学習習慣それぞれについて、教職員がそれぞれ別々に評価ができるような仕組みを考えていきます。また、次年度の自己評価表の項目も追加・変更します。

- ・両学科の卒業生が、卒業後も新たな進路でやり抜ける力を育むため、カリキュラムの見直しを行い、課題解決能力を養っていきます。活躍している卒業生に学校の教育活動に寄与してもらっ

ているが、個人レベルの繋がりとなっているため、学校として繋がる方策を検討し、寄付などの要請も実施していきます。

(5) 生徒支援

①現状と課題

・進路および生徒相談に関する支援体制について

本校では、国内外の大学・専門学校への進学相談をする複数の進路指導担当者と、各クラス複数の担任を配置して、一人ひとりの志望と能力・資質にあわせて進路指導と教育相談に対応しています。

担任だけが対応するのではなく、学校全体での支援を保護者・医療機関、場合によっては中学校とも連携をとって行っています。「生徒・保護者からの相談体制は整備されているか」3.6

「保護者と適切に連携しているか」3.5と今年も高評価を維持しています。アンケート結果も、在校生91%、卒業生90%が「相談に応じてくれる」と回答、保護者も在校生保護者93%、卒業生保護者100%と高評価で、自由記述からも「教職員は親身に相談にのってくれる」という声が多数ありました。

表現・コミュニケーション学科では大学生から年配の方まで多様なボランティアが授業や休み時間に生徒のサポートをしています。また、大学や専門学校との連携によりインターンシップや実習の受け入れを行うことで、生徒にとっての多様な出会いの機会を増やすことができています。

両学科とも週に一度生徒支援会議を実施しています。また必要に応じて緊急会議や継続生徒支援会議を行い、一人ひとりの生徒を丁寧に支援しています。保健室の養護教諭・カウンセラー・特別支援教育コーディネータとも十分な連携がとれ、重篤なケースは併設する総合教育センターや他機関（病院等）への誘導も行っています。反面、これらの丁寧な支援に教職員が多くの時間を費やすことが課題となっています。

上記、非常に充実した体制を取っている一方で、支援の手厚さを維持するための教職員の負担は大きく、人的リソース不足が常に課題となっています。

②今後の改善方策

外部機関やボランティアとの連携を広げ、教職員の負担軽減を図ります。またICTを活用した効率化をより一層進めます。キャリア教育についても外部講師授業を継続し、生徒の将来像形成を支援します。

(6) 教育環境

①現状と課題

・施設・設備等について

本校では、専門学校の設置基準に基づき、学生・生徒が快適に学習に専念できるスペースと施設・設備を確保しています。また、それらの整備状況を各課程・学科の責任者が常に把握し、使用状況、使用計画、使用内規、学生・生徒に対する使用案内を行っています。

施設・設備のメンテナンスに関しては、責任者から上げられるレポートをもとに専門学校責任者会議で検討し、防災センターの一括管理と更新計画に基づいて、これにあたっています。2024年度はPCルーム更新を実施し、ICT環境を改善しました。「施設・設備が充実」と回答した割合は在校生83%、卒業生54%で、改善傾向ながら卒業生評価は依然低水準です。また、国際学科では2021年度よりBYOD（一人一台の端末を持参）、表現・コミュニケーション学科では2024年度よりBYAD（学校管理の一人一台iPad端末持参）を実施しています。

・職場実習、海外研修等について

高等課程では職場実習や海外研修に積極的に取り組んでいます。

外部関係機関・企業との連携による職業訓練校見学や大学のオープンスクール参加、職場実習などを、生徒の職業観を育てる一端としております。また、今年度よりソウルYMCAとの連携のもと「韓国スタディツアー」を新たに実施しました。多感なこの年齢での、アジアやニュージーランドでの海外研修の体験は、人としての成長を豊かにするものとなっています。国際学科はデンマークの高等学校と連携協定を結び、同一年度内に双方の学校が修学旅行としての訪問・ホームステイ体験を実現しています。このプログラムを経て大きく成長した姿を見ることができ、教職員・保護者とも成果を実感しています。

・防災に対する取り組みについて

毎年、法令に基づいた防災訓練を行っています。これは、大阪YMCAで作成している「安全管理ガイドライン」に基づいて本校の防災マニュアルを作成し、それに従った要員の配置と役割の明確化により防災訓練を行うものです。防災訓練は、2011年度より従来の火災を想定したものに加え、地震・津波の想定にも対応した訓練を加えています。高等課程として独自にマニュアルを作成し、救急法も毎年実施しております。災害時、持ち出し用の非常連絡先カードを作成し、全員に提出を義務付けています。また、学内や学外での万一の場合に備え、傷害保険に加入しています。

今年度、表現・コミュニケーション学科は学科単体でも夏休み登校日に全校で避難訓練を実施し、防災教育の強化、教職員の意識向上に努めています。

・学校行事について

表現・コミュニケーション学科では、3年生は2泊3日で広島に行き、広島平和記念公園を含む碑めぐりや被爆者の方のお話を聞きました。また、2年生は徳島県阿南市にあるYMCA阿南国際海洋センターでの海洋プログラムを実施して仲間づくりを行い、成果を実感することができました。国際学科では、阿南国際海洋センターでの海洋プログラム、デンマークとの交換留学、スキー実習など従来の学校行事を行いました。国際交流や体験学習を希望して入学してきた生徒が多いため、満足度は高く、充実したものになりました。

両学科共に課題学習発表会(プレゼン大会)を実施し、生徒が自ら課題を設定し、調べ学習からさらに考えを深め、対話的で協働的な深い学びの成果発表の場としています。

②今後の改善方策

- ・施設更新を計画的に進めます。学校行事や研修については安全確保を徹底しつつ、体験のさらなる充実を目指します。
- ・国際学科においても、さらなる防災意識の強化を図るべく、仕組みづくりを行ってまいります。

(7) 生徒の受入れ募集

①現状と課題

・生徒募集活動について

本校では、生徒の募集活動について、その内容や手法については教育機関としての節度を持ち、適正に行うよう努めています。広報に用いるパンフレットやWebサイトは、教育内容、進学状況等が、生徒や保護者の立場からわかりやすく理解できることを常に意識し、作成しています。表現・コミュニケーション学科は、2022年度より定員を50名とし、より多くの生徒を受け入れるようにしました。両学科とも学内における説明会や個別相談に対して、適切な対応ができるための研修を行い、相談後も入学に至るまでのフォローアップを行っています。

すべての項目とも3.0を超える高い評価ですが、昨年度よりはやや低くなりました。「教育成果は正確に伝えられているか」において国際学科は2.8となっており、英語力の向上などの教育

成果を募集には活かしきれていないと感じている可能性があります。もしくは今年度より、学校訪問専属の担当者を配置したことで、教職員が直接中学校進路担当者等に挨拶等で紹介する機会が失われていることから、体感として評価が下がっているとも考えられます。

外部アンケートでは、「この学校に入学してよかった」と回答した割合が在校生91%、卒業生92%と高く、学校選択の満足度、受け入れ募集の成果が裏付けられました。

・入学選考について

入学選考を適正かつ公平に行うため、入学募集要項に入学選考方法の基準を記載しています。

・学生生徒納付金について

理事会・評議員会において、各課程・学科における入学金、授業料、実習費等の学生生徒納付金金が、学生・生徒の人数、教育内容、教育環境に照らし妥当なものであるかどうかの検討を経て、決定しています。

②今後の改善方策

・教育成果をより明確に募集に活かすため、教育成果を実感するための「見える化」を進めていきます。表現・コミュニケーション学科では2023年度よりアウトカム評価（ソーシャル・インパクト・アセスメント）の作成を進めており、数値化が難しかった教育成果のより明確な紹介ができると考えています。

(8) 財務

①現状と課題

・学校の財務基盤について

本校では、本部事務局と学校法人本部が連携して、学校の財務基盤について中期計画を立て、執行状況に関しては常時管理のうえ毎年半期ごとの理事会・評議員会のチェックを経て、財務状況、資産内容や資金内容の管理を行っています。

課題としては、国際関係、社会経済状況等により左右されない安定した財務基盤が求められています。

・予算・収支計画について

予算・収支に関しては、中期計画、年度計画に基づいて執行しています。予算・収支の総額および収支各項目の妥当性は、理事会・評議員会においてチェックがなされ、予算の問題点や今後の動向については業務組織に対する指摘が行われます。

・会計監査について

半期ごとに年2回、監事による会計監査と監査法人による会計監査を適正に行っており、理事会・評議員会に報告しています。

・財務情報の公開

自己点検・自己評価を公開するとともに、財務情報の公開も行っています。

会計監査・財務情報公開とも、今年度評価は双方とも3.1と高くはあるものの、昨年度より下がりました（昨年度3.7、3.6）。会計監査・財務情報公開を適切に実施していることを、教職員全体に周知・共有を徹底することが必要だと考えています。

②今後の改善方策

安定した収入基盤の確立のため、また多文化理解向上やグローバルな人材育成のためにも、国際学科は2015年に学科改編をしました。そこから8年、安定した運営になってきていますが、留学する生徒が年々増えていることで、クラス運営とのバランスや留学時期の一定のルールを作成しました。表現・コミュニケーション学科は定員の充足を図ります。そのために教育活動の充実と広報の強化を図ります。

(9) 法令等の遵守

①現状と課題

- ・本校におけるコンプライアンスについて

本校では、学校法人本部、本部事務局に法律の専門家を顧問として配置し、新制度や規則の制定、各種届出などの際に多角的なチェックを行うなど、法令等を遵守する体制を構築するとともに、各本部への報告を通じて、運用が適切であるかどうかを検証しています。

- ・個人情報の保護対策について

本校では、2005年以來、大阪YMCAで定めた個人情報保護ガイドラインに基づき、学校に必要な個人情報の保護を、学校法人本部主導のもとに運用し、毎年講師会において常勤者・非常勤者に対してそのルールについて注意喚起を行い、個人情報の保護に努めています。

- ・自己点検・自己評価の実施・改善と結果公開について

2008年度から自己点検・自己評価の実施、生徒・保護者アンケートを行うとともに、積極的に公開しております。

②今後の改善方策

- ・前項に引き続き、自己評価の実施・公開について、教職員全体に周知・共有を徹底してまいります。

(10) 社会貢献・地域貢献

①現状と課題

本校では、YMCAの特色を活かし、多くの社会教育活動に取り組んでいます。学校行事としてのボランティア活動はもとより、YMCA全体行事として、また土佐堀地域活動委員会との連携、YMCAのサポートクラブであるワイズメンズクラブとの連携、大阪市や西区役所との連携により数々の社会教育活動を、生徒と共に行っています。

地域に対する公開講座・教育訓練については、高等課程内のYMCA総合教育センターにおいて、一般や教職員を対象として実施しています。オンラインで実施することで、より多くの方に受講いただけるようになりました。

両学科協働で行うアートで社会と繋がる活動では、淀川キリスト教病院の季節のデコレーションを作成したり、福祉施設の七夕飾りを作成したりしました。また大阪メトロ肥後橋駅より毎年生徒作品の展示要請を受け、協力しています。

「ピンクシャツデー」の取り組みははじめ防止のための大きな一歩となりました。

地域コミュニティ作りのためのとさぼりカーニバルは学校行事として位置づけております。今年度は地域の子どもたちやその保護者など約1400人の来場者があり、子どもたちや保護者の方にご参加いただきその利益を寄付することができました。アンケートでも「地域行事に積極的に参加している」との評価が在校生保護者86%、卒業生保護者84%に上り、一定の成果が確認されました。

また、大阪市や尼崎市から不登校支援事業への委託を受け、3拠点の運営を行うとともに、付随事業として公立学校への研修を実施しています。こうした活動が学校としての成果であることを教職員全体に周知・共有する必要があると考えています。

②今後の改善方策

前項に引き続き、地域貢献については不登校支援事業委託や付随事業などの成果を、教職員全体に周知・共有を徹底してまいります。

(11) 国際交流

①現状と課題

国際学科を中心に、デンマークとの交換留学、アジアやニュージーランドでの研修を実施しました。「国際交流に満足」と回答した割合は在校生 88%、卒業生 85%と高評価です。

大阪YMCA国際専門学校にはビジネス専門課程を中心に留学生が200人近く在籍していることや、国際学科においては在籍生の中に外国籍、外国にルーツがある生徒を5割近く受け入れ、十分な日本語教育の提供など入学しやすい環境を維持しています。また法人内にインターナショナルスクールをもち、世界の120の国と地域にYMCAがあり、国際交流をするには、大変恵まれた状況にあります。生徒たちは多様な国籍の人たちとの空間を日常的に過ごしています。

②今後の改善方策

学校内が地球であるという考えのもと、今後も多様性を生かし、生徒たちがグローバルな視点で平和を考えていけるように、その機会を提供したいと考えています。

Ⅲ. 2024年度外部アンケートについて

(1) 全体的な傾向

本年度も在校生・卒業生およびその保護者を対象にアンケートを実施し、学校運営や教育活動に関する評価を把握しました。回答結果は昨年度と同様、全体的に高評価です。学校関係者評価では、今年度も外部アンケートの評価の高さに驚かれ、非常に高い評価をいただきました。とりわけ「授業のわかりやすさ」や「教職員の相談対応」に関しては肯定的回答が9割を超え、非常に安定した評価を得ています。

保護者アンケートでは「この学校に入学させてよかった」との回答が在校生保護者94%、卒業生保護者100%と非常に高い割合を示し、学校への信頼感は揺るぎないものとなっています。特に「教職員は親身に相談にのってくれる」という評価は、生徒・保護者双方から一貫して高く、学校全体の安心感を支える大きな要素となっています。

(2) 項目毎の現状・課題と改善方策（在校生・卒業生）

(1) 学習態度

①現状と課題

生徒自らの態度について問うものですが、在校生については、遅刻、欠席についての質問に「そう思わない」と回答している割合の多さが目立ちます。不登校経験のある生徒が多いこともひとつの原因と思われます。それ以外では、概ね評価は高いと言えます。遅刻、欠席の多い生徒には補講を実施し、その振り返り面談の中で対策を一緒に考えるようにしています。卒業生についてその割合は低くなっており、3年間の中で遅刻・欠席について一定の改善の成果があったことが伺えます。

②今後の改善方策

遅刻、欠席をすることがあると自覚している生徒について、引き続き生活改善や対策を共に考え、改善を目指していきます。

(2) 授業

①現状と課題

各評価項目はおおむね80%以上が「そう思う」「ややそう思う」となっています。生徒にとっては満足のいく授業に改善したと受け止めております。習熟度別のクラスに対しても、機械的に点数でわけのではなく、必ず生徒の気持ちを尊重して行うことが反映されていることとされます。

「授業はわかりやすい」には在校生76%、卒業生86%が肯定的な評価となっており、教員の努力がみられます。

(3) 学校行事

①現状と課題

「学校行事が楽しみである」の項目は「あまりそう思わない」「そう思わない」が在校生24%、卒業生28%となり、行事が苦手な生徒も多い中、事前の準備や保護者への説明会などにより、比較的強く抑えられていると考えられます。特に国際学科では肯定的評価が86%、「そう思わない」が0%と非常に高い評価を得ており、学校行事を生徒自身が運営することの多いカリキュラムの影響が表れていると受けとめています。

②今後の改善方策

学校外の方々と共に活動する学校行事は多く、また行事準備への時間を多くとっています。不登校経験が長く、人と集団で活動する経験が少ない生徒が表現・コミュニケーション学科には多く、学校行事は敷居が高いところもあると認識し、学校行事の取り組み方をさらに工夫していきます。

(4) 生徒支援

①現状と課題

両学科とも高い評価でした。「教職員は親身に相談にのってくれる」在校生83%、卒業生80%でした。複数担任制や職員が生徒に手厚く関わっていることがこの評価に繋がったと考えます。

特に国際学科では「クラス担任・教職員は信頼できる」に対し、在校生64%から「4：そう思う」と高い評価を得、生徒の信頼を得られた成果だと受けとめています。

(5) 学校生活全般

①現状と課題

「学校の理念・方針（スクールモットー）」への理解は国際学科では在校生87%が肯定的評価をしており、生徒には十分浸透していることが伺えます。

「多様性を尊重しあえる環境」についても、卒業生86%、在校生80%、特に国際学科では88%が肯定的評価をしており、「Celebrate Our Differences」をスクールモットーの一番に置く学科として、理念が体现された証拠であると自負しております。

(3) 項目毎の現状・課題と改善方策（保護者）

(1) 学校運営全般

①現状と課題

10の項目のうち「教育理念・方針」「情報伝達」「美化活動」「この学校にお子様をいれて良かった」の4つで、在校生・卒業生保護者とも肯定的評価が100%と、非常に高評価を得まし

た。その他も在校生・卒業生保護者ともほぼすべてが90%以上の肯定的評価を得ています（唯一「設備」のみ卒業生保護者が肯定的評価85%）。

（2）教育内容

①現状と課題

8つの項目のうち、「カリキュラムのわかりやすさ」「教育内容はお子様にあっている」「授業や実習・学校行事は役に立つ」の3つの項目で、卒業生保護者からは肯定的評価100%を得ました。在校生保護者からは7つの項目が肯定的評価90%以上（「カリキュラム」のみ89%）、卒業生保護者からは6つの項目で肯定的評価90%以上をいただき、教育内容には理解と賛同を得ていると受け止めております。

「学校行事以外でも生徒が活動できる場が充実している」には「あまりそう思わない」が卒業生保護者のみ18%、「ICT活用の適切な実施」について「あまりそう思わない」が卒業生保護者のみ17%と、他の項目と比べ評価が低くなっています。前者については昨年度より大きく改善しており、今後も学校行事以外で生徒が活動できる場としてボランティアや海外研修、地域行事への参加を図ってまいります。後者については、表コミの一人一台iPad体制スタートの中、卒業生はその対象でなかったことが影響しているとも考えられます。

（3）健康管理

①現状と課題

健康面での対応については、保護者100%が肯定的評価でした。

②今後の改善方策

健康管理は生徒の安全に繋がる大切なものです。思春期の身体と心づくりは、後々にも大きく影響します。また、感染症予防の観点からも毎日の体温測定を継続してまいります。これからも学校と家庭で生徒の健康を見守っていく考えです。

（4）生徒支援

①現状と課題

保護者アンケートのすべての項目で「そう思わない」が0%、またお子様への対応についてはほぼ100%が肯定的評価でした。また卒業生保護者はすべての項目で肯定的評価90%以上となりました。

特に「お子様には親身に適切に対応している」が在校生保護者100%、卒業生保護者97%となっており、保護者から信頼を得ている成果だと受け止めております。日々の様子は担任を通して家庭にお知らせしています。また担任にすべてを任せるのではなく、週に一度の生徒支援会議などを通して学科全体で生徒を支援しています。「生徒間のトラブルの対応」についても在校生保護者91%・卒業生保護者98%、「学校は家庭と連携した生徒支援ができています」在校生保護者96%・卒業生保護者97%であり、高い満足度が伺えます。引き続き学校と家庭が連携して生徒を支援できるようにしていきます。

②今後の改善方策

複数の担当者を設置し、多面的に支援できる体制を整えると共に、必要に応じて、養護教諭やスクールカウンセラー、YMCA総合教育センターと連携し、生徒を支援していきます。また、複数担任制により、生徒間トラブルに迅速に対応し、適切な保護者との連携に努めます。

（5）保護者

①現状と課題

両学科とも高い評価でした。保護者交流会やPTAは卒業してからも参加していただける仕組みにしていることも一因かと思われます。

②今後の改善方策

表現・コミュニケーション学科では、保護者交流会の中で卒業生保護者と在校生保護者が交流できる仕組みを作っていきます。

(6) 情報公開

①現状と課題

「学校のHPはわかりやすい内容になっている」は在校生・卒業生保護者とも肯定的評価100%を得ました。また、一斉配信システム「さくら連絡網」についても在校生保護者100%、卒業生保護者97%から肯定的評価をいただいています。

②今後の改善方策

今後も、ホームページやインスタグラムを通じて、適切な内容をタイムリーに頻回にアップロードしていきます。

以 上